

第92期 報告書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

目 次

株主の皆様へ	1
CFAO S.A.への資本参画について	3
事業トピックス	5
豊田通商グループのCSR活動	7
事業報告	
I. 企業集団の現況に関する事項	
1. 事業の経過およびその成果	9
2. 対処すべき課題	15
3. 財産および損益の状況	16
4. 重要な子会社の状況等	17
5. 主要な事業内容	18
6. 主要な営業所	18
7. 従業員の状況	18
8. 主要な借入先の状況	18
II. 会社の状況に関する事項	
1. 株式に関する事項	20
2. 新株予約権等に関する事項	21
3. 会社役員に関する事項	22
4. 会計監査人に関する事項	24
III. 会社の体制および方針	
1. 業務の適正を確保するための体制	25
2. 剰余金の配当等の決定に関する方針	28
連結貸借対照表	29
連結損益計算書	30
連結株主資本等変動計算書	31
貸借対照表	32
損益計算書	33
株主資本等変動計算書	34
連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本	35
会計監査人の監査報告書 謄本	36
監査役会の監査報告書 謄本	37
メモ	38

株主の皆様へ

株主の皆様へ

特

集

事業トピックス

CSR活動

事業報告

連結計算書類

計算書類

監査報告

1



取締役社長

加留部 淳

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第92期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の事業内容をご報告するにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

この1年間の経営環境を振り返りますと、新興国での成長は堅調に推移したものの、欧州債務問題の長期化、中国経済成長の鈍化などにより、世界経済は全体として低調なものとなりました。

一方、日本経済は停滞傾向が続きましたが、12月の新政権発足後から円安・株高が進み、企業・消費者の意識の改善が見られるようになりました。

このような経営環境のもと、豊田通商グループの売上高は6兆3,043億円、経常利益は1,248億円、当期純利益は674億円となりました。

配当に関しましては、株主の皆様のご期待に応えるべく、経済環境の変化や投資計画の進捗などを勘案して柔軟に対応する方針をとっており、期末配当金については、1株につき22円とすることを第92回定時株主総会にてご承認頂きました。

なお、当事業年度の1株当たりの配当金は、年間では中間配当金22円と合わせ44円となり、前事業年度の配当金に比べ2円の増配となります。

経済のグローバル化の進展にともない、お客様の活動範囲が海外に大きく広がり、また業種を超えた新規参入や、新興国企業との競争の激化、お客様のニーズの多様化など、当社を取り巻く環境は大きく変化しており、この傾向は今後も益々増大していくものと考えております。

このような経営環境の変化に対応して、豊田通商グループは、これまでの成功体験に甘んじることなく、お客様に喜んでいただける機能とサービスとを提供するための取り組み、つまり、従来機能・サービスの面展開（横展）はもちろんのこと、その強化（深掘り）や、新しいお客様への展開（幅出し）を進めることにより、新規事業の創造に積極的に取り組んでまいります。

先進国においては、これまでの長い取引を通じた基盤が確立されている地域が多く、当社の強みを活かせる事業の横展、深掘り、および幅出しにより、新たな取り組みを進めていきます。

一方、BRICsをはじめとする新興地域や、将来的に新興国となるであろうアフリカ諸国、ベトナム、ミャンマーといったメコン諸国においては、これら地域に事業基盤を有する有力パートナーとの協業戦略を進めています。

例えば、昨年資本参画したCFAO（セーファーオー）S.A.にアライアンス強化メンバーを出向させる一方、

当社内にも戦略提携事業部を設置し、アフリカにおける具体的な協業体制の構築に乗り出しました。

また、攻めの事業展開と並行して、事業のスクラップを進め、資産効率の改善と財務体質の強化を図ってまいります。

これらの攻めと守りの取り組みを通じて、更に企業価値を向上させ「GLOBAL 2020 VISION」に掲げる企業像の実現を目指してまいります。

当社グループをご理解いただき、ご支援くださっている株主の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具
平成25年6月

